洋学文庫
文庫8
C 335
1

叙

余近頃長崎ニ遊フノ次友人某氏カ家ニ於テ米利堅人「ペルリ」ノ録セル日本紀行ナル者ヲ獲テ窃ニ之ヲ全読スレ𪜈書巻浩瀚ニメ俄ニ卒業スヘキニアラス其喫緊ナル処僅ニ二巻ヲ飜譯シテ齎ラシ帰リヌ猶此編ヲ熟読セハ彼一斑ヲ窺フテ虎豹ノ質ヲ知ルニ足ラン余又謂ラク此書ハ彼カ詭計陰謀ハ存セル者ニテ宜シク先吾朝ニ泄スヘカラサル者ヲ蘭人等カ幸ニ舶載シテ未レルコソ恐多クモ我

41 7929

神州ノ冥助トヤ云ハン、若シ有識ノ丈夫アリテ、
彼カ肺肝ヲ洞見シ、我處置ヲ畫策セハ、彼ヲ知リ
己ヲ知ル、孫子カ言ニモ慙サルヘシ、

榎本武揚

日本紀行譯本卷上

第一編

「ミニステル、ケン子ブ」君ニ上ル書、

一千八百五十二年十一月五日「ミニステル、アト、インテリス」官「シラト」名人華盛頓ノ公衙ニ於テ書ヲ「ミニステル」官「イヘ、ケン子フ」君足下ニ呈ス、伏シテ惟ミレハ日本ニ遣スヘキ軍艦ノ纜ヲ解ク「己ニ近日ニアルヲ以テ、其使命ヲ全ク成就セシタメニ著眼スヘキ一二ノ事件ヲ陳セン、

一歐邏巴洲ノ人始テ日本國土ヲ探得シヨリ、諸

陳信義書

方ノ海國陸続トシテ此ニ通商センヿヲ求ム
是其人民ノ衆多土地ノ富饒人ヲメ直ニ利ヲ
射ルノ心ヲ興サシムルヲ以テナリ
一葡萄牙第一ニ此事ヲ務メ之ニ次ク者ハ即チ
和蘭英吉利是班牙及ヒ魯西亜ニシテ最後ナル
モノハ合衆國ナリ然モ近代ニ及テ其意部テ
無益トナレリ但葡萄牙人日本ニ通商セル濫
觴ト和蘭人毎年一艘ノ船ヲ来スヿ何レノ比
ニ免許ヲ得シヤ共ニ其詳ヲ知ヘカラス
一支那ハ日本ト通商セルヿ莫大ニシテ他國之
ニ比スヘキ者ナシ
一日本ハ厳ニ鎖國ノ法ヲ守テ他邦ノ船ノ最大
ナル危難ニ遇ヿモ敢テ港内ニ入ルヲ允サス
且其國人危難ニ当ルモ亦之ヲ助ルヲ得サラ
シム
一千八百三十一年日本船一艘烈風ニ逢テ航路
ヲ失ヒ数月ノ間漂流シテ呵理干(カリフコン)ノ沿(ヒロビ)龍(ヤ)河ノ
口ニ著セリ
一米利堅船「モリッソン」号船漂客ノ残泯ヲ守護シテ
其故國ニ送ントス既ニシテ其船江戸港内

ニ近ケハ海岸砲臺ヨリ「カノン」弾ヲ射発セリ
因テ又他港ニ赴ントスレハ彼カ馳逐ヲ受テ
大ニ我船ヲ破損ス終ニ已ムヿヲ得スシテ日
本人ト共ニ本國ニ帰来レリ若シ此時我船彼
濱ニテ破碎セハ誠ニ憾ムヘキ処置ヲ受ン
一千八百四十六年米利坚ノ捕鯨船二艘「ヲニタ」
及ヒ「ストラウレンセ」船号共ニ日本港ニ漂着シ其
衆皆囚トナリ甚暴悪ナル処置ヲ受タリ
其命ヲ全スルハ偏ニ長崎ニ留在セル和蘭長
吏ノ周旋ニ依ルヿ更ニ疑ナシトス

凡テ各國ノ人我衆ト如何ニ誓約ヲ結ントスル
ルヿヲ自ラ決定スルハ是理ノ当然ナルヿ素ヨ
リ論ヲ俟タス而シテ其決定センタメニ設クヘ
キ法律中又預メ注意スヘキ肝要ノ事ナリ
一海難ニ由テ他邦ノ海岸ニ漂着セル人民ニ緊
要ノ輔助ノ待遇ヲ得セシムルニアリ此事ハ
実ニ礼儀ニ係ルヿ小ナラス細ニ論スレハ道
理ニ於テスツヘカラス然ルニ法ヲ設ケテ其
礼ヲ棄擲シ且不幸ノ漂民ヲ悪ムヘキ罪囚ノ
如ク処置セルヿ公然トシテ國敵ト称スルニ

堪タリ

一風俗開化セシ國ニ於テ今日ニ至テハ其粗暴ナル処置ヲ受猶堪忍セルヿハ其罪ヲ問ハントスレハ國ヲ距ルヿ遠大ニシテ甚往還ニ難キヲ以テノミ若シ日本ノ地改邏巴米利堅ニ近接スルヿ其亜細亜洲ニ於ケルカ如クナレハ已ニ一個ノ粗暴者トシテ処置セラレ又已ムヿヲ得スシテ各國ノ政度ニ從ハンヿ疑ナシ

一合衆國ノ政府日本ト通商約束ヲ定ントセシヿ已ニ両度ニ及ヘリ即チ千八百三十三年「ロペルツ」名ヲ撰挙シテ東方各國並ニ日本ト約定ヲ為ンタメニ政府全權トシテ其任ヲ與レモ不幸ニシテ死セルヲ以テ遂ニ之ヲ果サス

一千八百四十五年「コムモドル宿ビットレ」名軍艦二艘ヲ付シテ日本ニ送リ其港ニ入ルヿヲ得ヘキヤ否ヤヲ試ミ且之ニ命メ仇讐ノ意ヲ発セシメ又ハ政府ニ対シテ不信ヲ生セシムヘキ諸件ハ務メテ避クヘキヿヲ戒メタリヒットレ已ニ江戸海ニ至レモ日本人ハ支那和蘭ヲ除クノ外決メ他國ノ人民ト會談シ得サル報ヲ

受ケ速ニ其國ヲ去リ再ヒ其地ニ反来ルヘカラサル旨ヲ諭サレ且其身ニ損害ヲ被レリ其後「ラゴタ」カ暴悪ノ処置ヲ受レモ蓋此「ヒツトル」カ命ヲ奉メ已ムヲ得ス極テ順柔ナリシヨリ起レルナルヘシ

一近時ノ事迹ニ由テ考レハ東方ノ諸國我邦ニ関係スルヿ嘗昔ヨリ進メルヲ粗ヽ知ルニ堪ヘタルヿアリ即大洋ヲ通行セル蒸気船我大平海ニ臨メル海國ノ過半ヲ領スルト速ニ人民ヲ植セシト黄金鑛ヲ発明セシト及ヒ地球ノ両海ヲ隔タル大地峡巴那麻ノ地峡ニ迄頃設タル通路等是ナリ此ニ由テ之ヲ觀レハ殆ント後未ハ擴張スヘキ境界タルヿ預メ知ルヘキナリ

一千八百五十一年「コムモトル」官「アウリツノ」人名日本ノ政府ニ至リ會議スヘキ命ヲ受レモ其後又命ヲ下サス遂ニ其權ヲ「コムモトル」官「ヘルリ」人名ニ轉移セリ今日ニ在テハ此旨ヲ能ク察スルヲ要務トス

我政府ノ目的ハ次ニ記セル如シ

○第一日本海岸ニ於テ破船シ或ハ海難ノタメニ
日本港内逃避セシ我船ノ人衆及ヒ所載ノ
諸品ヲ長ク保護スヘキ事
○第二日本処々ノ港ニ於テ食料薪水其焼料ヲ
求メハ之ヲ授クヘシ又我船損害ヲ受シ時
之ヲ留メスシテ猶旅行スルカタメニ船艤
ヲ修覆セシムヘキ事石炭ノ貯蔵所ヲ其最
大ナル島日本ノ本地ヲ云ナルヘシニ設クルヿ若又然ラ
サレハ近傍ノ諸小島中ニ必之ヲ設クヘキ事
○第三我船其貨物ヲ鬻キ又ハ交易スルカタメニ
一港若シクハ數港ニ至ルヲ得ルヿヲ許ス
ヘキ事
米利堅ノ政府ヘ他ノ國民ノ困苦ヲ営ミ或
ハ之カ為ニ條約ヲ結フノ理決メアルヿナシ
且此會議ニ由テ特通商ノ利ノミヲ網スルハ
本政府ノ目的ニアラス只我政府ノ希望セ
ル所ハ此利益ヲ以テ凡テ風俗化開セル所
ノ全地球ニ及ント欲スルナリ
若シ日本ノ一國ニ於テ一タヒ港ヲ開キ得
レハ直ニ諸方ノ人モ此ニ入ルヲ得ヘキヿ

疑ヒナシ、
次ニ又論スヘキハ如何シテ此志ヲ達スヘキヤノ事件ナリ、
證拠或ハ保証術ハ先ツ威力ヲ以テ彼民ヲ恐喝シ其勢ヲ佐ケテ尊敬ヲ興サシムルニアラサレハ無益ノ費トナランヿ猶昔時ノ事ノ如ケン、
是故ニ軍艦ノ指揮官其威力ヲ逞フシ日本海岸中ノ要地ニ至リ且其政府ト応接シ大統領ノ書翰ヲ呈センタメニ直ニ日本市ニ面謁センヿヲ迫リ求ムルヲ以テ要務トスヘシ然ルトキハ我指揮官ノ此書簡ヲ齎セルハ日本米利堅両國ノタメニ最要ナルヿニ就テノミ奉ルヿヲ彼國人ニ知ラシムヘシ、所謂最要ナルヿトハ大紗領ハ日本ノタメ太タ親睦ナル意思ヲ存シ毫モ他慮ヲ挾マサルヲ云ヘリ、
但日本ニ於テ我舶ノ私意ニ依ルト、海難ヲ受テ已ムヿヲ得サルトヲ論セス、只讐敵ノ如クニ極メテ暴悪ナル処置ヲナセルトキハ

又不快ノ意ヲ生セサルヲ得ス去レハ我指揮官ノ芽一ニ「モリッソン、ラゴダ」及「ロ、ストウ」ニセ（共ニ船号ニ）生セシ事件ヲ示シ顯スヲ要トスヘシ

又我政府ノ後未日本ノ海岸ニテ破船セルモノニハ親切ニ処置スヘキ実著ノ証験ヲ得ルヿヲ望ムノ意ヲ告ケ且両國ノ間ニ大通商ノ利益ヲ開クヿヲ成就スルヲ務ムヘシ

蓋日本國ノ民基督（キリスト）ノ徒ト交ルヿヲ深ク忌嫌フハ其根原ヲ考ルニ最初航行セシ葡萄牙人直ニ其教ヲ擴張セントテ非常ニ勉強シテ方便ヲ為セルニ由ルナリ

是故ニ「ユムモドレ」之ニ告テ日本ノ政府ハ他ノ基督（キリスト）ノ政府ト異ニシテ其所管ノ民ノ教法ニ関係セス他ノ教法ニ於テノミ然ルヿヲ知ラシムヘシト云リ

抑日本人ノ恐怖ト失見トハ特ニ英吉利ノ所為ニアリ疑ラクハ日本人英吉利ノ東方ヲ押領セルヿ又ハ支那ヲ侵伐セシ間沈スルカタメナリ上ニ記セル両船ノ受タル不

仁ノ処置ハ蓋我船ヲ以テ英吉利船ト錯認セレヨリ起レルナルヘシ此旨ハ「ニヽタ」号船ノ卒ノ報告ニ由テ知ル所ナリ

是故ニ「コムモドレ」ペルリ」次ノ事件ヲ告クヘシ

即チ合衆國ハ決シテ歐羅巴ノ諸政府ト合從セサル事

合衆國管轄セル地ハ日本ト歐羅巴ノ間ニアリテ歐羅巴ノ人始テ日本ニ航海セシ頃凡同一時ニ此民人ノ発明セシ國ナル事

欧羅巴ニ接セル地ハ最初ニ旧地球ヨリ人種ヲ移セリ而シテ其人速ニ全國ニ蔓延シテ遂ニ太平海ニ達セシ事

我大統領ハ方今此地ニ於テ大都府ヲ領シ其処ヨリ水蒸船ヲ用レハ二十日ニシテ日本ニ達スヘキ事

大統領ハ地球中ノ諸國ト通商スル一日ヽニ廣ク船帆ヲ以テ大洋ヲ蔽フニ足ル事

日本ト合衆國トハ如此ニ日ヲ逐フテ次第ニ相近クヲ以テ大統領日本帝和親ヲ結フヲ望メリ然モ若シ日本決メ他ノ政法ヲ

建ス我國ト我民トシ仇讐ノ如ク処置スル
コトシ改サルキハ親睦ノ意必行レサル事
日本ノ改法ハ其初ニアリテ時宜ニ応セシト
云ヘドモ方今ノ如ク両國ノ往返甚容易ニシ
テ且速ナルニ至リテハ之シ才智アリト為
ヘカラス且行ヒ遂クヘカラサル事
若シ既ニ諸般ノ事體及ヒ保証術シ陳尽スモ日
本ノ政府ニ於テハ猶鎖國ノ法シ守リ敢テ廃ス
ルコトナキキハ「コムモトレ」ペルリ」其言シ改メ且合
衆國ノ政府望求ル所ハ後来日本ニ漂着シ或ハ
已ムコトシ得スメ其港内ニ逃避セシ諸般ノ船舶
及ヒ人民等其地ニ留在セル間ハ懇切ナル処置
アルヘキコトシ明白ニ言語シ善クシ日本人ニ告
諭スルシ要トス
又日本ニ於テ我國ノ人民シ処置スルニ誤失ア
ルキハ其政府ノ法ト其民ノ所為トシ論セス遂
ニ大ナル罪故トナルヘキコトシ告ルシ要トス
若シ上ニ記セシ諸件ニ於テ許諾シ受ケシコアル
キハ「コムモトレ」ヘルリ」會議ノ全權シ受タル條約
中ニ之シ記載スルシ要トス

我政府ノ支那暹羅及ヒ「ミユスカト」國ト為タル條
約ノ寫帖ヲ「コムモトル」ヘルリ」ニ與ヘ其例ニ比シテ
同件ノ條約ヲ日本ト為ンカタメノ用トスヘシ
「コムモトル」ペルリ」冥ク注意スヘキ「ハ大紗領元
ヨリ軍ヲ送ル意ナケレハ其使節タル者モ亦須
ラク温和ノ意ヲ失サルヘシ若シ自ラ其船ト兵
士ヲ守衛シ或ハ其身又ハ其士長ヲ攻襲セル者
ヲ拒退ルカタメニアラサレハ決メ劇迫ノ処置ヲ
ナスヘカラサルナリ
日本ハ傲慢ニシテ強頑ナル性質アリト世人已ニ

書ニ筆セリ去レハ其民ト応接スルニハ「コムモトル」
ペルリ」カ行狀ノ礼儀ヲ守リ懇切ニシテ且坚固ニ
決断アルヲ最善トス
是故ニ「コムモトル」ペルリ」ハ我礼儀ヲ守リシ意思ト
敢テ一致セサル日本島ニ於テ受ヘキ処ノ無礼
ナル処置トシ寛優強忍ナル心ヲ以テ熟察スル
ヲ要トス然レトモ自家ノ品位或ハ國ノ體格ヲ損
スヘキ諸件ハ精細ニ之ヲ避クヘシ
「コムモトル」ペルリ」日本人ニ我國ノ威力ト土地ノ
廣大ナルトヲ能ク領知セシメ且昔日ノ緩待ハ

我日本ト懇情ヲ求ルカタメニメ本ヨリ恐怖スル
ニアラサルヲ示スヲ要トス
如此特異ナル新命ヲ奉スル使節ニ於テ不意ノ
諸害ヲ避クヘキ一ハ假令ヨク斉整セル教喩ア
リモ容易ニ之ヲ能スヘカラズ且其使命ヲ奉ス
ヘキノ地大ニ遠隔セルヲ以テ「ユムモトレ」ニ與ヲ
ル大全權ヲ以テスルヲ要トス
又彼此ノ事件ニ於テ非常ノ事若クハ僅ニ不当
ノ憶見アルモ我ニ於テハ極メテ之ヲ緩待シ且
慮ルヘキ保証ヲ得ルヲ要トスヘシ

和蘭ノ政府ヨリ我政府ニ告テ此般貴國使命ノ
目的ヲ助クヘキ旨ヲ日本ニ留在スル商館ノ吏
長ニ命セラレシ一固ヨリ希望スル所ナリ即チ
貴國ノ民日本ニ於テ囚虜トナレル中之ニ顕セ
シ懇切ナル処置ヲ以テ知ラルヘシト述タリ
支那ニアル合衆國ノ「ミニステルレシデント」使節ヲ云ヘリ
モ我政府ヨリ日本ニ為スヘキ種々ノ要領ヲ熟
察シテ賛成スルヲ務ムヘシ
夫軍艦ノ支那ニ留在セルハ此要領ヲ大ニ助クル
所アルヲ以テナリ若指揮官ノ意ヲ以テ無益ノミ

遲留シ又他ノ妨害トナルヘキヿナクシテ香港或
ハ澳門ニ務テ長ク滞留セハ之ヲ指揮官ニ請問スシ
若シ此軍艦ノ指揮官其使命ヲ忘ルヽヿナク日本
及ヒ其鄰近ノ海岸ヲ測量シ得レハ此ニ由テ只
我地理学ニ益アルノミナラス更ニ我通商ヲ擴
張シ又我捕鯨船ノタメニ此遠隔ノ海上ニ新ニ一
洒ノ避難港ヲ開ケルナリ
指揮官其航海中訪フ所ノ諸國ニ於テ其土人カ
依頼セル諸件ト其産物トヲ明ニ知得ルヲ務ム
ヘク又精工ノ物品及珍奇ナル草木ノ種子ヲ索
ムルヲ要トス
右ニ挙ル所ノ目的ヲ達スルカタメニ此公衙ニ於
テ指揮官ニ許スニ龍動ニ在ル「バリング」人名兄弟及
同僚ノ家ニテ幾額ノ金子ヲ受クヘキヿヲ以セリ
即嚮道通辨官等ニ與フル給金并ニ其使命ヲ表
セルタメニ日本ニ贈ルヘキ諸贄ヲ適当ニ営マン
ガタメナリ
「ミニステルアトインテリリム」官名「コンラド」人名敬白
海軍「ミニステル」官名イヘケン子フ」人名君足下

第二編

合衆國大紗領ヨリ日本帝ニ上ル書

合衆國ノ大紗領美辣非謨（ミルラヒモル）姓名日本帝殿下大尊良友ニ白ス予今殿下ノ領國ヲ訪フヘキ隊船ヲ管領セル合衆國ノ海軍上將「コムモト」官名「マツテウカペル」姓名ニ由リテ此公翰ヲ殿下ニ呈ス予「コムモド」ペルリ」ニ命シテ我貴邦ノ政府及ヒ衆民ト親和ヲ通セントセル」且此上將ヲ日本ニ遣スハ親交ヲ結ヒ通商ヲ開ンヿヲ殿下ニ辨スルタノノ外決メ他慮ナキヿヲ告シム

合衆國ノ政律ハ固ヨリ、他邦ノ政教ヲ攪擾スヘキ
諸件ヲ厳禁セリ、
予「コムモトルペルリ」ニ諭シテ貴國太平ノ害トナル
ヘキ諸件ヲ極テ謹ムヘシト戒メタリ、
米利堅合衆國ノ管轄セル諸地ハ、大洋ヨリ大洋
ニ達ス中ニ呵理(オルニン)干ト加理(カルホルニヤ)科哺亜ニアルモノハ、
正ニ殿下ノ領國ニ対セリ、我水蒸舶ハ十八日ニ
メ加理科哺亜ヨリ日本ニ至ルヘシ、
此加理科哺亜ハ毎年大抵六千万「ドルラル」銀貨(ノ名)ノ
黄金ヲ産シ、且白銀水銀寶石及ヒ他ノ貴品ヲ出
セリ、
日本モ亦富澤豊饒ノ國ニシテ許多ノ寶物ヲ産
シ、且殿下ノ臣民ハ皆許多ノ工匠ニ擢タリト聞
ク故ニ両國互ニ利益アラント量リ、通商親交ノ
事ヲ求ム、
我政府ニ於テ貴國政律ハ中古ヨリ以来支那和
蘭ヲ除クノ外ハ他邦ノ民ト通商スルヿヲ許サ
サルヿ已ニ能ク之ヲ知ル、然レトモ天下ノ事皆変
革スルヲ以テ常トシ、殊ニ又國府政令ノ古ハ之
レナク近代ニ至テ始テ起ルモノアリ、故ニ時ヲ

逐テ法ヲ立ルハ智者ノ為ス所ナリ、
貴國ノ政府昔日ニアリテ法ヲ立テシ其初モハ
時宜ニ隨フナルヘシ、
欧羅巴人始テ米利坚ヲ発明シ人種ヲ移セシハ
大抵之レト同時ニシテ或ハ之レヲ新世界ト名
ケシ者アリ、
最初ハ居民ノ口数甚少シテ且貧ナレ𪜈今日ニ
至リテ大ニ繁殖シ通商モ亦擴張シテ一大國土
ト成レリ、若シ殿下古法ヲ改メ通商ヲ開カハ両
國ノ益豈数フルニ勝ユヘケンヤ、

試可期五年
或十年

若シ殿下鄰交ヲ厳禁セル古法ヲ以テ廃シ難シ
トナスナラハ、試ニ五年若クハ十年ノ間ヲ期シ、
然ル後ニ敢テ已ムヘシ、
合衆國ハ屢諸國ト條約ヲ定ムルニ如此年数ヲ
期シ、若シ互ニ利ナキ件ハ時宜ニ依テ之レヲ改
メ又古法ニ復スルモアリ、若クハ然ラサルアリ、
予又此他ニ殿下ニ陳セントスル一条ノ事件ヲ「コ
ムモトレ」「ペルリ」ニ命セリ、
我船ノ加理科哥亜ヨリ支那ニ行クモノ、又日本
ノ海岸ニ於テ鯨猟ヲナセル者、毎年幾艘ノ多キ

ヲ知ラス、中ニ或ハ颶風海難ニ由テ貴國ノ海岸ニ於テ破損ヲ受タル者侭之レアリ、此時ニ当テ願クハ我不幸ノ漂民ヲ愛憐シ、又其物品ヲ保護シテ之レヲ載帰ルカタメニ船ヲ送ルヲ冀フヿヲ得ン、

又「コムモトレ」ペルリ」ニ命シテ我聞ク所ニ從ヘハ日本ニ於テ許多ノ石炭及他ノ食料ヲ産スト云ヘリ此由ヲ殿下ニ陳セシメン、

我水蒸気船ハ大洋ヲ航行スルニ当テ甚多量ノ石炭ヲ費用セリ、而メ之ヲ本國ヨリ毎時容易ニ得ヘキニアラス、是故ニ我諸船時々日本ニ入リ石炭食料及ヒ薪水ヲ獲ルヿヲ希望ス、然ルトキハ殿下臣民ノ好ミニ任セ、銭貨若クハ他物ヲ以テ之ヲ償フヘシ、因テ貴國ノ南岸ニ於テ我船舶ノ入津スヘキ一港ヲ定ムルヿヲ希望ス、

以上諸件ハ「コムモトレ」ペルリ」強大ノ隊船ヲ以テ殿下ノ都府ニ至ル所以ノ要旨ナリ、余「コムモトレペルリ」ニ命メ進呈スル所ノ一二ノ物品ヲ収納スルヿヲ殿下ニ請ハシム、此物固ヨリ卑薄ナレトモ或ハ米里堅ノ巧藝ヲ試ルニ足ル者アルヘシ、

而メ我真誠恭敬ノ懇情ヲ表スルカタメニ之ヲ
進呈ス伏メ殿下ノ万福安全ヲ願フノミ良友美
辣斐漠敬白

第三編

「コムモトレ」「ペルリ」カ海軍「マリ子」官ニ報セシ書

一千八百五十三年第七月始テ幸端ヲ開クガタメ
ニ水蒸船「コムケハンナ」ニツレスレッピ」及ヒ快船「ブリモウト」
サラトカ共ニ船号隊船トナリ次第ニ指揮官「ビユカナンレユ」
ケルリ」及ヒ「ワルケル」共ニ人名ノ令ヲ受テ第二日土曜日
琉球ノ那覇港ヲ発シ第八日金曜日江戸湾内ノ
浦賀府ノ前ニ達シテ碇ヲ下セリ
余ハ先ツ往昔日本ニ来リシ同命ノ便節トハ全ク
別策ヲ用フルヿヲ思フ此ニ由テ余ハ風俗開化

セン國ヨリ他ノ國民ニ施スヘキ礼儀ヲ要スル
ヲ恩恵トセスシテ理ノ当然トナシ我先輩ノ如
キ暴悪ノ処置ヲ受ルヲ肯セス其約誤ヲ勸奬シ
又之ヲ排却セル旨苟モ米里堅ノ武威ニ適シ我
尊敬セル意ニ応セサレハ皆之ヲ退ケテ顧サル
ヿヲ決定セリ

⊙是ニ於テ兵卒ヲ練練セシメ船艦ヲ戒備セル丁
戦闘場ニアルカ如ク常ニ日本人ニ応接スルニ
軍法ヲ以テス乃チ厳ニ日本人ノ我舶側ニ来ル
ヲ制シ其官人ト虽モ旗章船ニ入ルヲ許スノミ

是亦其官位ト其未意ヲ明細ニ告サレハ敢テ入
ルヿヲ肯セス且又余ハ其高貴ノ士ニアラサレハ
決メ接セス是故ニ浦賀臺官及ヒ其次官ノ者ハ
「コマンデル」官名即チ「ブユカナン」名人アタムス「名「イラナンド」
官名即チ「コンテエ」名人ニ接遇セシメ余ハ只其應接
次将ナリ将官ナリ
ノ方略ト問答ノ論則トシテ指授スルノミ

⊙初余ハ謂ヘリ日本人ニ畏敬ノ心ヲ生セシメ
威儀正シカラシメンニハ先ツ自ラ威儀ヲ儼ニシ
毎事ニ果断メ之ヲ行フニ若クハナシト決定メ
応対シタレハ果メ我先見ニ違サリケリ

浦賀ハ江戸ヲ距ル「二十七里ニシテ昔時「ユルエムブユス」名船及英吉利闘艦ノ碇舶セシ所ニテ初メ余此港前ニ碇ヲ下セシ日ハ無數ノ小船我舶ヲ圍繞シ其兵士或ハ我船ニ攀躋ラントセシカ我命令ヲ下セシヨリ皆退キヌ

此小船中ノ稍大ナル者ニ一頭官ノ在ルアリテ我旗章船ノ側ニ近クニ因テ其官位姓名及ヒ使命ノ旨ヲ問ヘハ浦賀臺官ノ副手ニテ名ハ「タブロクケ」按スルニ三郎助ノ轉訛ナラン ニシテ「エスカトル」船三四艘ヲノ提督ニ列シタル名 親見シテ我舶ノ来意ヲ聞ンコトヲ請フト云ヘリ

提督ハ其高位ノ人ニアラサレハ敢テ接見セストヽヘハ彼レ三四回問難シテ必我舶ニ乗ラントヽ欲シ吾ハ浦賀府中ニ於テ最貴者ナレハ上舶ヲ許スヘシト自ラ云ヘリ然レ𪜈我ハ之ヲ拒ミテ允サス彼又然ラハ我同等ノ長官ニ謁セントヽ云是ヲ以テ數時ノ間彼レヲ待シメ徐クニ決断メ之ヲ許シ我「アジユダント」官名「ルユイテント」次官名「コンテエ」人名ニ合ノ唐通詞「ポルトマン」名人「ポルトガル」人「ポルトガル」ヲ携ヘシ譯官善ク蘭語ヲ通セルヲ君ト共ニ之ニ接見セシム爰ニ和蘭通詞ヲ副シ

以テナリ此時「タブロクケ」數般ノ問ヲ起シタレモ
我彼レニ告シハ米利坚國日本ヘ使節ヲ遣セルハ
只好意ニシテ合衆國大統領ヨリ日本帝ニ呈セル
書簡ヲ持来レルナリ顧クハ其高官ノ人ニ接見
シ其寫紙ト譯書ヲ授与シ然後適宜ノ威儀ヲ正
シテ其本書ヲ手授セントス彼レ答テ我國ノ法
凡テ外國人ニ接スル地ハ長崎ニ限レハ「エスカドル」
モ亦彼地ニ至レト云我又之ニ答テ此地江戸ニ
近キユヘニ爰ニ来ルナレハ遠ク長崎ニ往クヲ嫌
タズ必此地ニ於テ書柬ヲ交附セン事理モ亦然
ラスヤ但我意和ニアリテ他慮アルヿナシ然レモ
汝カ國ノ侮蔑ヲ受クルヲ悪ム又我船ノ四圍ニ
哨船ノ蝟集セルハ何事ソヤ若シ此船速ニ去ラ
スハ吾カ威力ヲ以テ之ヲ逐フベシト譯詞ヲ以
テ明白ニ傳ヘケレハ彼俄ニ起テ船口小艇ニ下ル処ノ口ニ
出テ急ニ令ヲ下シテ數多ノ小船ヲ陸ノ方ヘ退
カシム
然ルニ二三ノ小船猶隊ヲナシテ退カサルニ由テ我一
個ノ小艇ニ兵ヲ備テ遣シタレハ諸舟悉ク退去テ
我此港内ニアリシ間敢テ一船ノ我船ニ近ク者ナ

カリシ是此四ノ要事ニシテ我論ヲ貫キ達セシ
第一ナリ
「タフコクケ」吾ニハ大紗領ノ書柬ヲ受ヘシト保証シテ
答ルノ權ナシ明朝我ヨリ貴キ官位ノ者来リテ多分
荅ルヘシト云テ帰レリ
次朝浦賀ノ臺官香山栄左エ門来ル此人府中第一
等ノ政官ナリト称ス此ニ由テ昨日「タブロクケ」カ
府中棟梁ノ人ナリト云シハ詐ナルヲ明白ニ知ルヘ
シ栄左エ門ハ其位昨日ノ人ヨリ高ケレハ將官「ユ
カナン」アタムス」次將コンテエシシテ応接セシム是亦其
位彼國ノ政官ヨリ早キ人ノ余ノ前ニ来ルヲ許
サヽレハナリ
臺官又告テ書柬此ニテハ受ヘカラス「エスカドル」長崎
ニ到ルヘシ若又大紗領ノ書柬ハ此地ニテ受ル能
返簡ハ則長崎ニ送ルヘシト云此長キ対話中ニ臺
起ントセシ十数回ニ及ヘリ
余之ニ答テ我ハ必書柬ヲ此地ニテ交付セント欲
ス長崎ニ赴クノ指揮ヲ奉スル能ハス若シ日本
政官帝ニ代テ此信柬ヲ受ヘキ人ヲ選擇シテ遣
サレズハ余將ニ我全力ヲ尽シ上陸シテ手ヅカラ

奉ラント欲ス是ニ由テ不測ノ事起ルモ余少シモ
恐ルヽ所ナシト云ケレハ彼レハ専対スルヿ能ハス
席ヲ退ニ帰テ江戸ニ奏聞シ其裁決ヲ取テ四日ノ
後答ヲナサント云然レハ来火曜日即チ十二日マテ
待ヘシ当日ハ必確答ヲ得ント云ヒケレハ臺官ウ
ナツキ江戸ノ報来ルマテハ他ノ議論ハ互ニ無用
ナリト云テ去レリ
此時大紗領ノ書柬及ヒ余カ信柬ヲ臺官ニ示ス
臺官其匣ノ美シキニ驚ク其去ル時ニ至テ始テ薪
水ヲ欲セヘヤト問ヘモ我ハ此等ノ物ハ一モ缺クヿナ

シト答フ
余乃チ令ヲ下シ九日早朝ヨリ各船ニ兵ヲ備ヘ
器械ヲ載セタル艇ヲ出シ浦賀港ヨリ内海ノ深
浅廣狹ヲ測量セシム此時日本兵ヲ出シテ支ヘ
量リ難ケレハ此測量ノ嚮導ヲ命シタル次将「ベント」敘
ニ戒テ我砲弾ノ及ハサル外ニ出ルヿナカラシメ
余モ亦數艇ノ運動ヲ注視シテ少シモ懈ルヿナカリシ
数々ノ日本船我艇ヲ逐テ隨来レモ我備アルヲ
見テ敢テ支ユル者ハナシ
臺官我艇ヲ何ヲ為スヤト問ヒシ故ニ港内ヲ測量

スルナリト云ヘハ日本ノ法之ヲ禁スト云ヘリ我
モ亦我米利堅ノ法之ヲ為ス即チ卿等ノ其國法
ヲ守ルカ如シト答フ
是此国ノ要事ニシテ日本人ヲ論破セル第二ナリ
十日太陽日此日ハ更ニ日本官吏ニ接スルヿナシ
日本一吏人ノ譯司ヲ携ヘタル船我船ノ船ニ来リ
乗ント請ヒケル故「コムモトレ」ニ異議スヘキヿアリテ来
レルヤト問ヘハ只卿等ト語ラントテ来レリト云ケ
ル故ニ辞シ返シタリ
十一日月曜日早朝數艇ヲ港内ニ溯ラシ「モスレツピ」

以印以徴諮報
録佳答

ノ将官「ハエ」名ニ命シ其船ヲ以テ數艇ヲ護送セ
シム
大陽日ノタヘニ江戸ノ報来ラサル間ハ他ノ応接
無用ナリト告レ已今「ミスレスレツピ」船殊ニ深ク港
内ニ入ルヲ以テ我望メル如ク臺官又船中ニ来レリ
如此ニ火船ヲ江戸近境ニ遣セハ彼将官等必心安
カラス思ヒ我望ム所ノ佳答ヲ得ヘキ一助トナル
ヘキヿ洞見スル故如此「ミスレスレツピ」船ト數艇ヲ
此用ニ充テタレハ果シテ計リシ如クニナレリ
是ニ於テ臺官来テ明日ハ決メ違フ所ナク書束

ヲ受ケ江戸ヘ贈ルヘシ故ニ之ヲ告クト云ヘリ
余カ量リシ如ク彼レハ此書柬ノ本紙ヲ譯文ト思
ヒケルナリ
ロニテハ如此云ヒケレ𪜈実ハ「レスレプビ」船ノ及ヒ数艇
ノ深ク港ニ溯リシ事由ヲ問ントテ来レルナリ故
ニ先ツ此事ヲ問起セリ
余此趣ヲ前知セシ故彼レニ告テ事若シ今年中
ニ成サレハ明春必大軍ヲ率ヒ再ヒ来ント欲ス
ト云リ又此浦賀ノ碇泊場ハ全ク安穏平易ノ地
ニアラス将ニ他ノ江戸ニ近ク其府ニ到ル便ナ
ル佳港ヲ索メントスト云ヘリ
七月十二日火曜日此日江戸ノ報ヲ聴テハ午前
十時ニ至リテ果シテ臺官譯司一人從ヘ我船ニ
来レリ
臺官云ヘラク新ニ海濵ニ一屋ヲ営ミ諸君ヲ此
ニ延ントス乃チ帝ノ選擇セル高位ノ人其処ニ
テ応接シ貴國ノ書柬ヲ受ヘシト
但シ其答ハ此地ニ於テ為スヘカラス之ヲ長崎ニ
贈リ和蘭或ハ支那ノ首領官ヲ以テ之ヲ君等ニ
達スヘシト云ヘリ余之ヲ聞テ速ニ左ノ書ヲ作

リ蘭語ニ譯セシメ臺官ニ解シ易カラシム其文
提督ハ長崎ニ行クヿヲ欲セス又蘭漢ノ人言
ヲ聞クヲ欲セス
提督ハ合衆國大紗領ノ書柬ヲ日本帝若クハ
其政官ノ本國政務ヲ管セル者ニ手授スヘシ
絶テ他人ノ手ニ授ケス
大紗領ノ親睦ナル此書柬ヲ帝若シ受ス答ヘ
ラレズハ提督其國ヲ辱シムルニ至ラン然ル後
ニ復タ人ノ調和ヲ受ケス
提督数日中ニ報ヲ望ム而メ近地ニアラサレハ
何レノ地ニモ行クヲ欲セス
臺官此書ヲ見テ直ケニ府ニ帰ヘレリ蓋江戸府
ノ二三ノ高官浦賀ニ来テ窃ニ密議セル者アリ
故ニ帰リテ之ヲ議スルト見ヘタリ
午後臺官再ヒ来テ一貴官ノ畧全權ノ任ヲ受タ
ル者明後日ノ朝君ヲ陸ニ請フヘシト云余其人
ノ位官及ヒ全權ハ如何ニシテ我ニ證セルヤト
問ヘハ其證書ノ写牒ヲ携来テ示サントト云ヘリ
余ヲ接待セル地ハ何レノ処ナリヤト問ニ浦賀ヲ
距ル一大抵日本里程ニテ一里許ノ地ニ在ル栗

濱ト云ヘル小村アリト答フ此地ハ後ニ余カ圖中ニ「オントハングハーイ」云ヘル（授受港ト）意ト記セル処ナリ府中ノ衙内若クハ民家ニテ會接セサルハ如何ナル故ナリヤト問ヘハ此事ハ其縁故ヲ質メ明日未咎ヘシ耳上ニ約セシ写牒ヲ示シ又君ニ応接セル貴官人ノ来着ヲ報スヘシト云ヘリ

是日ハ我船港内ヲ測量シテ日ヲ終ヘタリ

七月十五日水曜日午後臺官我船ニ来リ其遅緩ヲ謝シ高官ノ人江戸ヨリシテ来着ノコヲ告ケ且帝ヨリ余ニ接セル官人ニ與ヘラレシ命令写牒ト和蘭譯文ト并ニ此數紙ハ皆同文同義ナル意ヲ記セル臺官ノ證書ヲ携来テ但此官人ハ余ト會議スルコヲ得テ其書束ヲ受帰テ其君ニ手呈スルノ權ヲ賜レルノミト云ヘリ

臺官又曰會接ノ地ヲ換ヘンコヲ議シタレトモ既ニ栗濱ニ屋ヲ營メハ速ニ移シ換フヘカラス余之ヲ聞テ其備ヲ為セリ

授與ノ間絶ラ異変ナキヿ料ルヘカラス故ニ數艇ヲ遣シ會接所ノ新屋ヲ検査セシムルニ數多ノ人雲ノ如ク集リテ操作セリ乃チ其地ヘカノン

弾ノ達スヘキ所マテ船ヲ寄スヘキ旨ヲ報ス、
於是「エスカドル」船隊ヲ一線ニ備ヘ全港濱ヲ蔽ヒ日
本人ノ浅謀ニ対シテ余ヲ防護セシム是余何故
ニ會屋ヲ此地ニ設ルヤノ意ヲ曉知セサレハナリ、
七月十四日水曜日、書束ヲ授クヘキ期日ナリ、諸
船ノ長官水兵水手凡テ四百人戎装既ニ戒メ部
署既ニ整ヒケレハ、両火輪船上陸ノ兵ヲ護ルニ便
ナル所ニ砲ヲ投ス、但護兵ノ諸隊ハ數艇ニ乗リ
上陸シテ隊列ヲ厳ニシ戒備ヘタリ、余乃チ之ニ
継テ上陸ス、

軍用「スループ」船ハ風之シクメ従フ能ハス、
港ノ全岸一里余ノ間悉ク日本ノ兵隊ヲ以テ之
ヲ埋ム、其數五千ヨリ七千ノ間ニ見エ、総テ歩騎
弓砲ヲ以編成セリ、其中多クノ歩兵ハ火石梳鋭
ヲ執リ他ハ火縄銃ヲ把レリ、
余上陸シテ直チニ今般新造屋ニ入リ、日本第一
等教官伊豆守及ヒ其同職ノ石見守ニ謁ス、大紗
領ノ書束并ニ余カ信簡及ヒ三封ノ按紙何レモ
英蘭漢ノ譯文ヲ添テ伊豆守ニ手授シ其領書ヲ
収ム、

伊豆石見二國主ノ側ニ浦賀臺官第一等ノ譯司
及ヒ録司侍坐セリ今日ノ會議ニハ絶テ談論セ
スト約セシ故少時頃留テ別シ告ケ舶中ニ帰ル
其行列総テ上陸ノ時ニ同シ
領書ヲ譯スレハ左ノ如シ
元来外國ニ関レルヿ都テ長崎ニ於テ待遇ス
ルヿニ定ム是故ニ書柬ヲ此地ニテ収ル非議
セル者アリ然レ𪜈古格ヲ守レハ今般「コモドレ」
ガ大紗領ノ使節トナリテ其使命ヲ辱メント
為ンヿヲ想ヒ只此般ノ我國法ヲ枉ク其結尾

ニ云書柬既ニ領受セリ卿去ルヿヲ得ヘシ
此词ニ少レモ拘サル意ヲ國守ニ示サンタメ直
チニ隊舶ノ碇ヲ挙ケ國人ノ実ニ希望セル如ク
港ヲ去ルニハアラスメ從来曾テ他邦ノ人知サル
カウト（江戸ヲ云ナルヘシ）府ニ近キ水上ニ兵威ヲ輝カスニ
因テ以テ其國法ノ傲伐頑陋ヲ破リ大紗領ノ書
柬ヲ達スル一媒トナサントスレハナリ
四船一線トナリ測量シ且溯リテ遥ニ浦賀ヲ囲
顧スレハ既ニ見ルヘカラサルニ至ル
夜ニ入リ從来異船ノ乗リ入シ処ヨリ十里許モ

地方近キニ碇ヲ投ス、余乃チ此処ヲ「アメリカン
アンコラケ」ト名ク、
十五日金曜日早朝ニ諸艇更ニ進テ海ヲ測量ス、
午後「ミスシシフピ」船名ト共ニ今朝ヨリ進ムヿ十里
ニシテ浦賀ノ碇舶所ヲ距ルヿ二十里ナリ、是故
ニ江戸ヲ去ルヿ七里ノ所ニ来ル、乃チ遥ニ江戸
港ニ無數ノヨンケン我船ヲ云蝟集填充セルヲ明ニ見
得タリ、然ルニ都府ハ漢土ノ諸地ニ同シク、其家甲
クシテ地嶺ノ突出シタルニ蔽ハレテ余輩ニハ
入ラス、

尚進入スヘケレトモ然ルニハ非常ノ騒擾ヲ起サシムヿ
ヲ恐レ、且大紗領ノ書柬ノタメニモ善カラスト計リ、
又既ニ頗ル日本帝ヲ恐怖セシムルニ足ルト思ヘハ、
此処ヨリ舵ヲ轉シテ「アメリカンアンコラケ」地名ノ隊舶
ノ側ニ帰ル、
其間ニ浦賀臺官「スユスクエンナ」船名ノ側ニ来リ、「ミスシ
スシフピ」船名ノ運動ヲ見テ殊ニ心安カラサル様子ニ
然ルニ其未意ヲ述ントテ大紗領ノ書柬既ニ都城
ニ達セルヿ疑ナシ敬受セラルヘシト云ヒ、且我徒
ニ二三ノ贈餽ヲ受ヘキヿヲ請フ、是ヨリ先キニ

余既ニ令ヲ下シテ我殊ニ許セル者ニアラサレハ
一人モ我船ヘ近ツカシムヘカラスト戒メタレハ
敢テ其人ヲ入レス又其贈餽ヲ受ケス於是彼ハ
明朝更ニ来ラントテ帰ル
是日此用ニ供セル外ノ諸船ハ悉ク浦賀以内ノ
西濱ヲ測量セリ
其數十二艘
十六日土曜日早曉我船浦賀ヨリ内五里ノ所余
カ嚮ニ「スユスリセナ」海ト名ケシ地ニアリテ諸艦
ト共ニ測量ヲナセリ

我船未タ碇ヲ下サヽル前ニ臺官既ニ船ニアリテ
大紗領ノ書翰ニ収納セルヿヲ申言シ又答書
ヲ長崎ニ送ルヘキ旨ハ更ニ之ヲ云ハス又此ニ
由テ之ヲ觀レハ我等帝居（江戸ヲ云ナルヘシ）ニ近ツクマニ〳〵ニ
ハ必愈親睦温柔ヲ加ヘン
余人ヲ遣ハシ卿等若シ我贈餽ヲ受サレハ我モ亦
卿ノ贈餽受スト云
彼レ初メハ之ヲ肯セスシテ日本ノ法之ヲ受ルヲ禁
スト云
余又我國ノ法ハ五ニ善ク敬儀ヲ相表スルヿヲ

命ス是故ニ只卿等ノ贈餽ノミ受ヘカラス
彼レ余ヲ此事ニ就テモ他ノ法度ニ関レルヿニ於
ル如ク固執者ト見シ故ニヤ武器ヲ除クノ外ハ
我報物ヲ受ケント云ヘリ是ニ於テ彼レカ贈物
ヨリモ價貴キモノ數品ヲ甲板上ニ出シテ彼レ
ニ與ヘントスレハ彼レハ之ヲ見テ其物甚貴ニ過
ル旨ヲ云且臺官及ヒ譯士ノ自ラ携得ヘキ物ノ
外ハ受返ルヿ能ハスト云余又答テ卿等若シ我贈
物ヲ隠匿セハ之ノ持帰ルヘシト云ハセテレハ劔三
口ヲ残シテ其余ハ悉ク持帰レリ此三劔余之ヲ
許シタリ
午後臺官又来リテ雞及ヒ雞卵ノ二薄物ヲ贈ル
余此人等ニ関係ヲ絶ントヿ思ヒシ故ニ之ニ報フル
ニ臺官及譯司ノ妻ニ貴價ノ物數品ヲ贈ル此物
モ亦初メハ受ケシト云タレトモ余ニ論伏セラレテ
遂ニ受タリ
此内海ノ西岸ヲ量リ浦賀ヨリ江戸ヲ距ルヿ大
抵十四里ノ間ノ測量ハ既ニ全備セリ且江戸ニ
近キ六里間ノ測量ハ「ミスレスレフヒ」船名及ヒ其艇ニ由
テ甚明瞭ナリ「アメリカン・アンコラゲ」地名ヨリ更ニ深ク

船ヲ進ムヘク成タレハ琉球ニ回ラント欲スル
定タリ、
日本ノ地ヲ離ルヽ後ハ「サラトガ」船名ヲ上海ヘ遣シ
テ他船ヲ以テ途中大島ヲ明細ニ検査セシメン
トス、
然ルニ此島ニ至ラサル前ニ暴風ニ遭フヲ以テ此
事ヲ果サス、
此滞留中ニ余カ親ヲ接見セルハ伊豆国石見井戸ノ
二國守ノミ、
彼臺官ノ接見セルハ我将官「ブユカナン」「アタムス」次将
コンテス」之ニ副ヘシハ漢通詞「スエルルスナルソアムス」和蘭
象暦「ホルトマン」共ニ名ナリ、又東道ヲ測量セシハ次将
シヲスベント欲ナリ、此諸長官皆我将令ニ従ヒ時ヽ
我ニ清フテ事ヲ議セリ、然ルトモ其応接ノ才智動作
共ニ賞スルニ堪タリ、即チ其性沈深ニシテ且勉
強セルヲ以テ全ク此雄事ヲ成就セリ、誠ニ嘉尚
スヘキ者ナリ、
余ハ已ニ一月ヨリ久シク海上ニ逗留セル粮食炭
水ノ貯蓄ナシ、然ルニ日本人ハ苟且ニ適宜ノ道
理ヲ陳シ、答辞ヲ遅滞セント欲ス、其意ヲ察スルニ

今般ノ事ニ由テ國内ノ諸侯ヲ會議シ且内裡即
チ法皇ニ其叡慮ヲ候スルニアラサレハ評議ヲ一
決シ難キナルヘシ此時ニ臨テ泛然ト日ヲ送ラハ
終ニ少シモ事ヲ成サス又発船セルヲ得サルニ
至ラン然レハ此答辞ヲ遅滞セルヿ彼レニ在テハ
利アルヘケレモ我此國ニ使ヒシテ佳勲ヲ建ント
スル機會ヲ妨クルハ此一事ニ在リト覚ユ
此ニ由テ余熟慮スルニ支那ノ事状紛乱シ本國
ノ船ハ彼地ヲ退キ難ク且最初我政府ノ約束ニ
テハ我ニ続テ直チニ此地ニ来ルヘキ諸船未タ

一艇モ到着セス又合衆國ノ贈物「フルモンド」船ニテ
送来ルヘキモノモ亦未タ到ラス此等ノ諸件ヲ商
量シテ日本人ニ明春マテ返束ヲ収ル期限ヲ延
サシメ且其罪ヲ宥スヘキ好縁故得ルヿヲ喜ヘリ
但来春ハ我全軍ヲ引率シテ石炭并ニ薪水ヲ備
ヘ幾月ニテモ逗留シ余ノ意見ヲ達スルマテノ預
備ヲ為シ来ラン
余又彼ニ恩徳ヲ施サントシテ別ニ一書ヲ作リ贈ラント
欲ス然モ日本政府ノ友和ナル交誼ヲ結ハサル
中ハ敢テ之ヲ授ス下文ハ即チ其写ニシテ他ノ

書中ニ附セリ、

「テコムモトレ」彼里カ帝家ニ上ル書

合衆國蒸気船「スエスケハンナ」船名一千八百五十三年第七月十四日、江戸ノ馬頭浦ニ於テ下ニ記セシ姓名ノ者ヨリ、日本政府ヘ會議セル題ハ甚重大ノ事ニシテ終始シ反覆熟慮シテ善悪シ判スルニハ必幾多ノ日月費スヘシ、故ニ下ニ記セル姓名ノ者之ヲ推察シテ来リ江戸ノ馬頭ニ再ヒ来テ其返辞ヲ受ント欲、是以テ今之ヲ通報ス、但其時ノ返簡ハ我両國ノ人民互ニ和睦ニ及フヘキ親切友和ナル処置アラン」信ニ希望スル所ナリ、

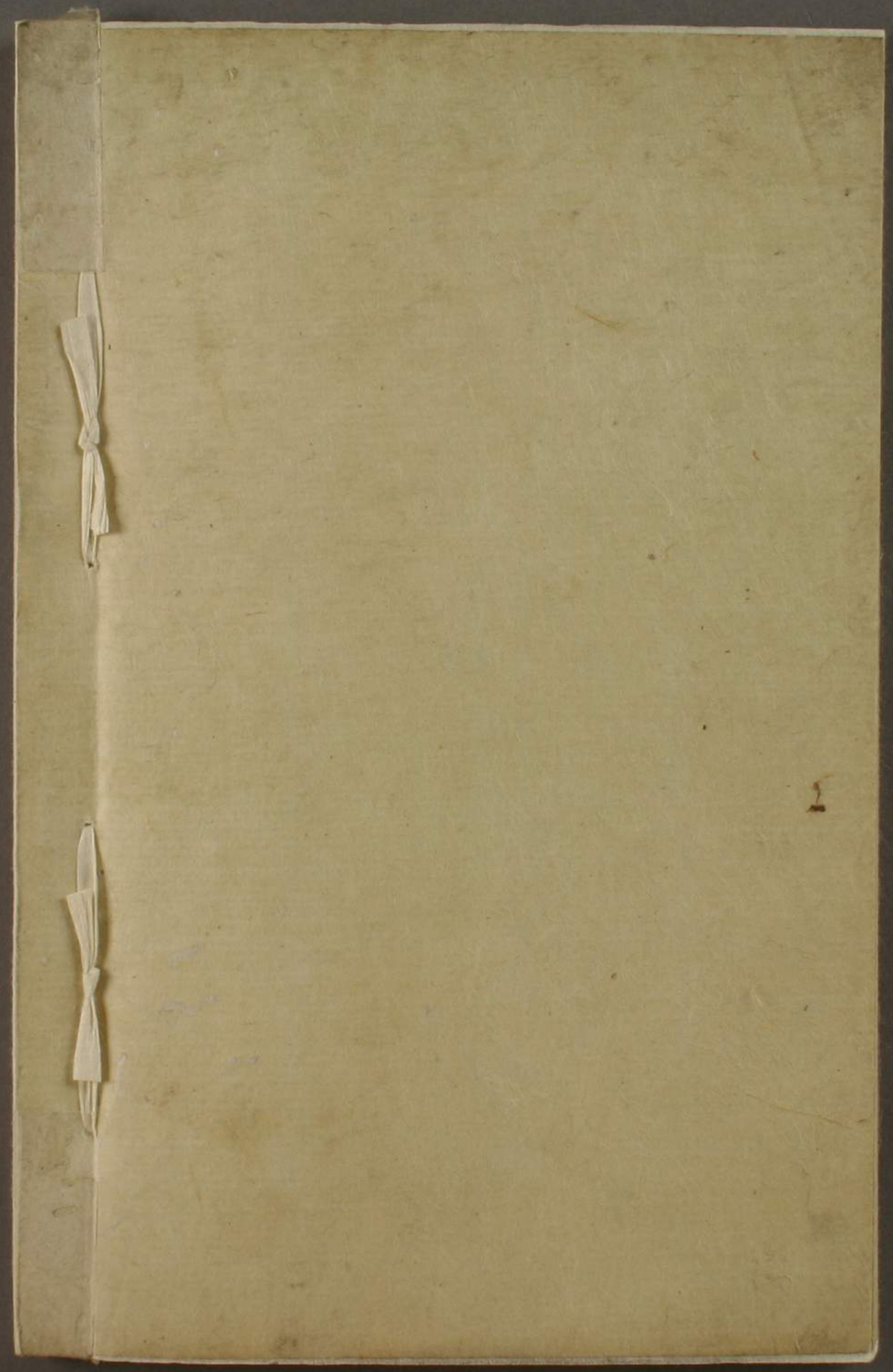
東印度支那日本海ノ海軍総督「ムセ」彼厘日本帝陛下ニ上ツル、

上ニ記セル所ノ文ヲ通讀セシ人ハ我「エスカトル」海軍ノ分隊江戸ノ港ニ逗留セル人日ノ内ニ余カ數ノ大快事ヲ收得タルヿヲ知ラン、此快事ハ支那和蘭二國ノ人ヲ除クノ外ハ他國ノ人ニ許サヽル所ニシテ、二國人ノ得ル所ノ快事モ亦甚僅小ノ事體ノミニシテ畢屈セルヿ多シトス、先ツ我快事ノ第一ハ初メ百艘許ノ番船ヲ以テ我船ヲ圍ミシカ余

カ命令ニテ直チニ之ヲ止メタリ其二ニハ未曾テ
知ラサル所ノ海水ヲ廣ク測量シ江戸ヲ距ルヿ
遠ラサル里數ノ地ニ及ヒ又多クノ砲合ノ大砲
ノ下マテ殘ラス深淺ヲ測リタリ其三ニハ余直
チニ國中ノ高ニ居レル一人ト謀リ對話セントスル
素志ヲ守リ且日本人ノ待遇ハ我國ノ政府并ニ
余カ為メニ令聞トナルヘキ処置ヲ行フヘシト少
シモ初念ヲ変セス又我國ノ制度ニテ取極タル
証據ヲ以テ使節トナレル本國ノ風儀ヲ事ニ臨テ
少シクモ撓曲セサルヿ是ナリ且浦賀ノ奉行ハ

執贈同等之礼
示非貢献

地上ニ蹲踞シ伊豆國守ト言語セリト云ヘ𪜈余ハ
麾下ノ者ニ圍マレ椅子ハ坐レテ伊豆石見ノ二
國守及ヒ其書記等ニ対話シ凡テ他國ノ全權官
カ此邦ニ永テ會議セル同等ノ処置ヲ受ケ応接
挙動ノ間敢テ之ニ踰ルヿナシ其四ハ贈物ヲ受授
セルニモ合衆國ト日本ト同等ニシテ東方諸國
ノ風ニヨリテ之ヲ行ヒ其國帝ニ他邦ヨリ贈物
ヲ遣ハセルハ尊貴ナル大國ニ帰伏シテ貢献ヲ為
セルトノミ思ヒタル舊習ヲ絶シメタル是ナリ
又日本人ニ合衆國ハ國勢強大壤地廣宏ナルヿ

日本ニ使リタルヿヲ知ラシム此意ハ唯我海客并
ニ他ノ商舶ノ防護ヲ為ンカタメニ各國ト友和
ノ交ヲ結ント欲シ殊ニ蒸気機カヲ発明セシ以
来太平海中ニ在ル我國ノ馬頭ニ接近セル一國ト
友親ノ遭遇ヲ為ント欲スルニ過ス曾テ他慮ア
ルヿナシ「ムセ」「ペルリ」敬白

長イ中